

第2回 有識者ワーキンググループ 資料

第1回「大阪のめざすSDGs先進都市」検討有識者WGの主な概要を開催（4/22）

◆**とき** 平成31年4月22日（月）13:30～15:30

◆**出席者** 合計46名

（有識者4名、経済界・企業等4名、行政38名《うち市町村13名》）

◆**次第**

- (1) ワーキンググループの設置にあたって
 - (2) 講演「関西SDGsプラットフォームの取組み」
 - (3) 意見交換
- ・「大阪がめざすSDGs先進都市の姿」を考えるにあたって
 - ・目標（ゴール）の考え方

◆**有識者（敬称略・五十音順）**

加藤 健 <国際協力機構（JICA）関西センター市民参加協力課長>

川久保 俊 <法政大学 デザイン工学部 准教授>

草郷 孝好 <関西大学 社会学部 教授>

村上 芽 <株式会社日本総合研究所 シニアマネージャー>

<有識者からいただいた主な意見>

◆**めざす姿を考えるにあたって考慮すべき視点について**

- 誰一人取り残さない（No One Left Behind）
⇒ 地域性も重要。「人懐っこさ」など大阪の気質も活かす。
- 変革（Transformation）
⇒ 市民もみんなが変わる必要。そのために興味を持って面白いと思っていただく。また、ネットワークなども重要。
- 大阪の成長への貢献
⇒ 府民・企業が当事者として取り組むメリットを感じる仕掛けが必要。

◆**考え方**

- まずは、大阪府がめざすべき方向性や、重点的に取り組む課題、テーマなどを洗い出す必要。
- 課題やテーマと、SDGsの理念やゴールとの関係を整理すべき。

◆**目標（ターゲット）について**

- 一つの課題を取り上げながら関係するゴールを考えるといったアプローチがありうる。
- ストーリーで考えることでとても良い見せ方になる。17のゴールは国際的な共通言語。
- SDGsのゴールはすべてが連関。重点的に取り組むゴールと、それが波及し、全てのゴールにつながっていくといったストーリーを、府民や企業の共感を得る形で示していくことが重要。

- “我々の世界を変革する”、“だれ一人取り残さない”というコンセプトのもと、2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」で採択された「国連持続可能な開発のための2030アジェンダ」、また、その中核をなす「持続可能な開発目標：SDGs」は、「成長と安全安心のよき循環による豊かな大阪の実現」という府政の基本的な考えと方向性を同じくするもの。
また、「2025年大阪・関西万博」のテーマである“いのち輝く未来社会”は、まさにSDGsが達成された社会。
- 大阪においては、SDGsの目標年次である2030年を見据えつつ、2025年の大阪・関西万博でSDGs先進都市としての姿を国内外に発信できるよう取組みを進める。
- そのために、行政や民間セクター、市民セクターなど様々な主体が、「2030アジェンダ」や「SDGs」の理念を意欲的に取り入れながら、それぞれが自律的に、それぞれの役割の中で社会課題の解決に取り組み、各主体が持ちうる資源や情報、ネットワークが補完しあい、個々の取組みが有機的に統合されることで、全体として、大阪の成長・発展や府民の豊かな暮らしの実現と、「SDGsの達成に貢献できる“いのち輝く未来社会”を先導する大阪」として変容することをめざしていく。

【取組みを進めるうえでの考え方】

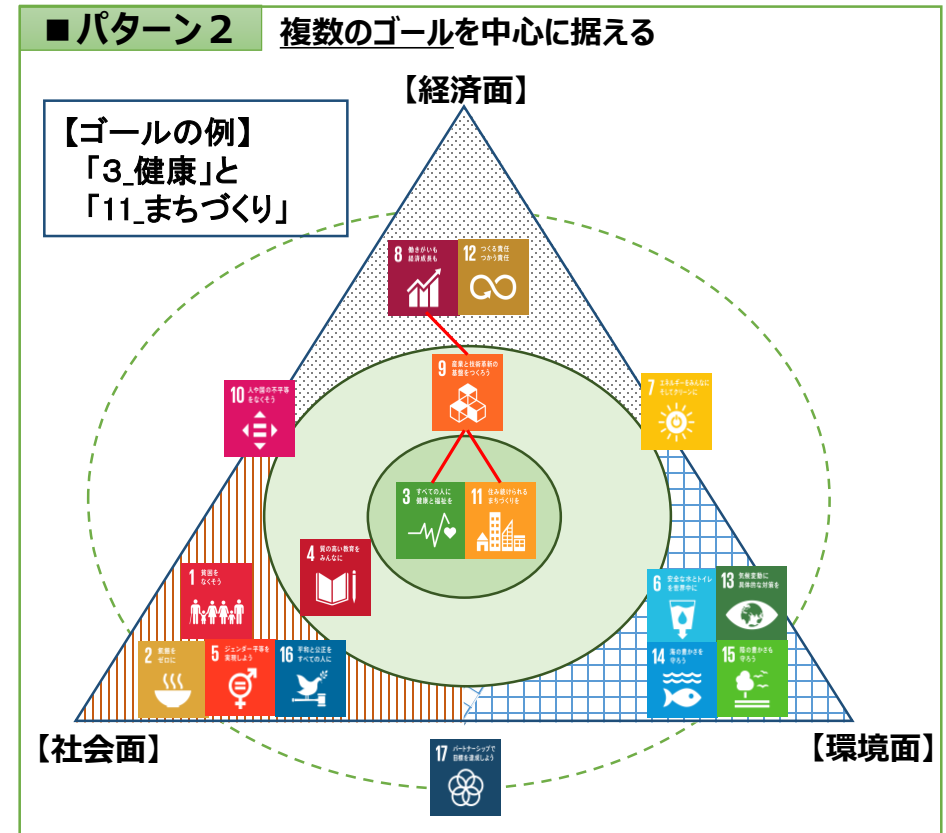
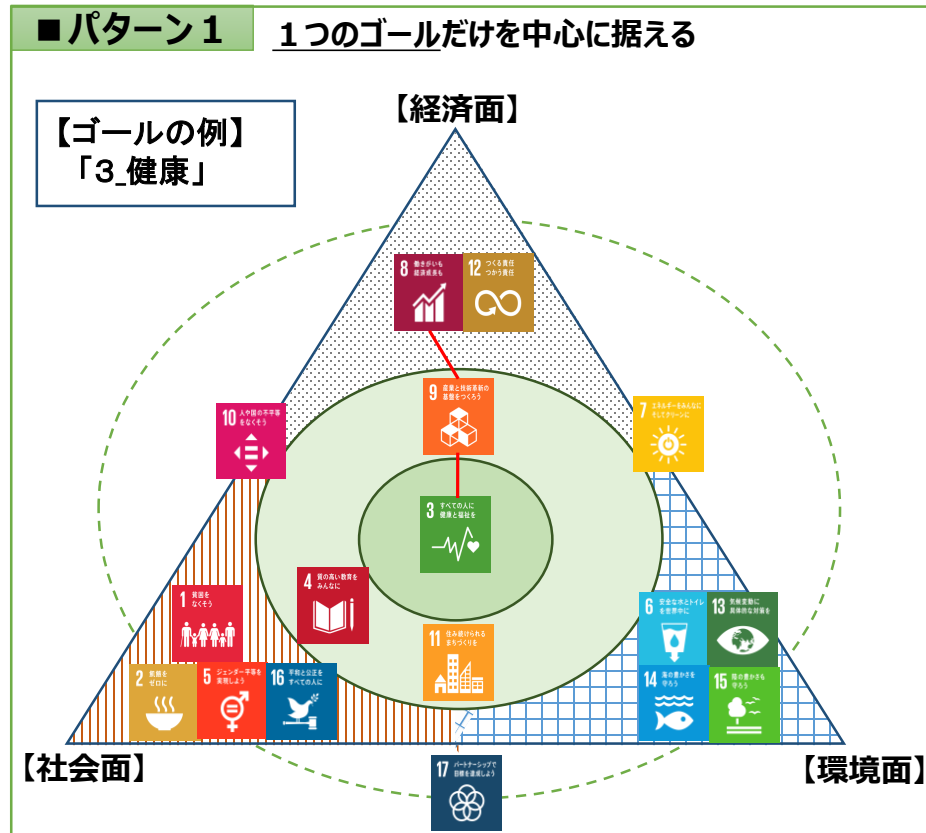
- ・ SDGsのために取り組んでいることも、
- ・ 自分のため、また、家族や地域、会社など誰かのために取り組んでいることが、実はSDGsであったりすることも、
- ・ SDGsを橋渡しに、いろんなパートナーシップを築いたり、ビジネスにつなげようとすることも、
- ・ 大阪では、これら全てをSDGsの取組みとして、推進していく

大阪における主な社会課題（SWOT分析）

	Helpful（+要因）	Harmful（-要因）
Internal Origin 内部要因	Strength（強み） <ul style="list-style-type: none"> ・豊富な歴史文化資源、観光魅力、自然環境、食文化 ・住環境の良さ、職住近接など働く環境の良さ ・大学・研究機関等の集積 ・健康・医療関連産業、ものづくり中小企業等の集積 ・ベンチャーやオンリーワン企業を生み出す風土 ・相互補完性が高く、域内の産業バランスの良い地域構造 ・空港、港湾などの充実した都市・産業インフラ ・関西での連携体制（関西広域連合） <p style="text-align: right;">など</p>	Weakness（弱み） <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、少子高齢化の進行 ・健康寿命 ・子どもの学力、貧困問題 ・人材不足の顕在化（女性や高齢者の就業率の低さ） ・首都圏への人材、企業の流出 ・廃業の増加 ・インフラの老朽化 ・一人あたり県民所得の低さ ・空き家の増加などまちの活力低下 ・情報発信力の弱さ <p style="text-align: right;">など</p>
	External Origin 外部要因	Opportunities（機会） <ul style="list-style-type: none"> ・大規模プロジェクト（G20大阪サミット、大阪・関西万博など） ・インバウンドの増加 ・関西とつながりの深いアジア市場の拡大 ・外国人材の増加 ・ICT、スマート社会の進展 ・健康分野への関心の高まり <p style="text-align: right;">など</p>

「いのち輝く未来社会をめざすビジョン」をもとにした整理例 ※様々なバリエーションがありうる

- (例) ■ **社会課題**：「全国的にみて健康寿命の伸び悩み」、「日本の都市部の中でも急速に進む高齢化」など
- **中心テーマ**：「健康に生涯を過ごせる都市」、「次世代が尊重され、みんなで支える都市」など
- **目標（ゴール）の考え方**：SDGsにおける持続可能な開発の3側面（経済、社会、環境）の観点から整理）



【ストーリー例】



健康をテーマとしたイノベーションの創出が介護ロボットの開発につながり、介護従事者の負担軽減による働き方改革が進む

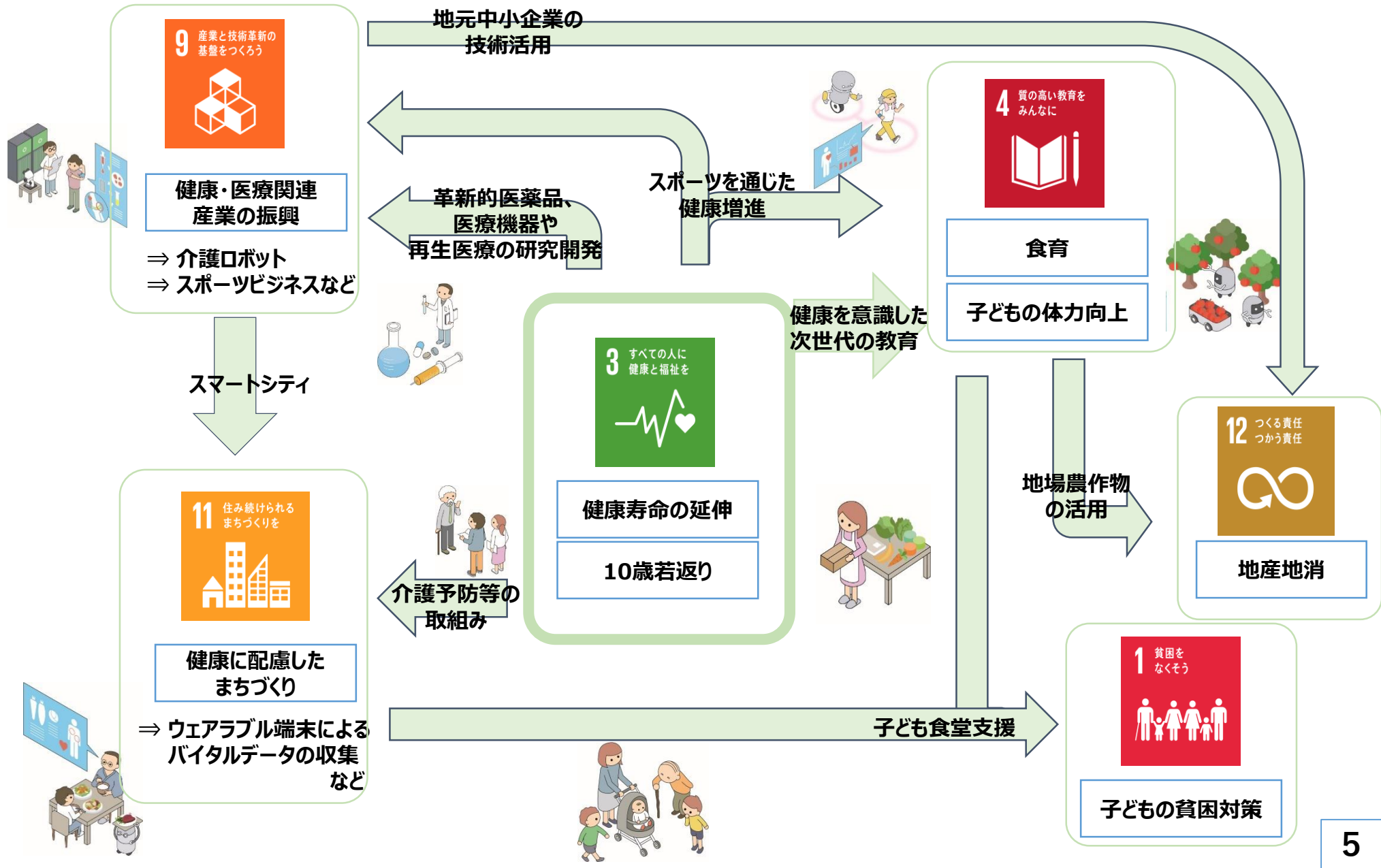
ゴールを複数とするかどうかで、同じ「9_産業」から「8_雇用」へと続く流れでもストーリーが異なる

【ストーリー例】



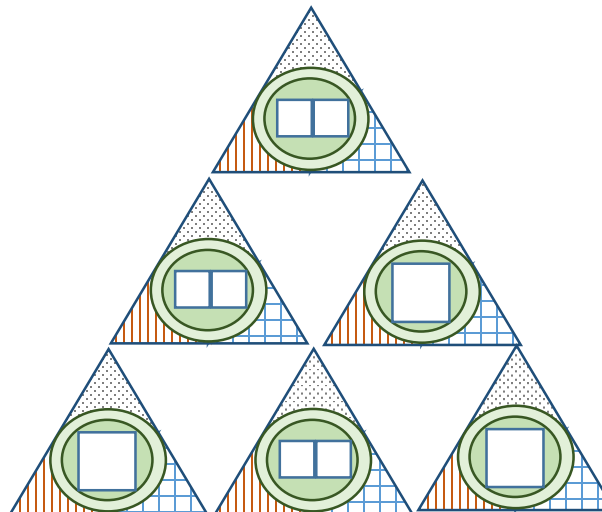
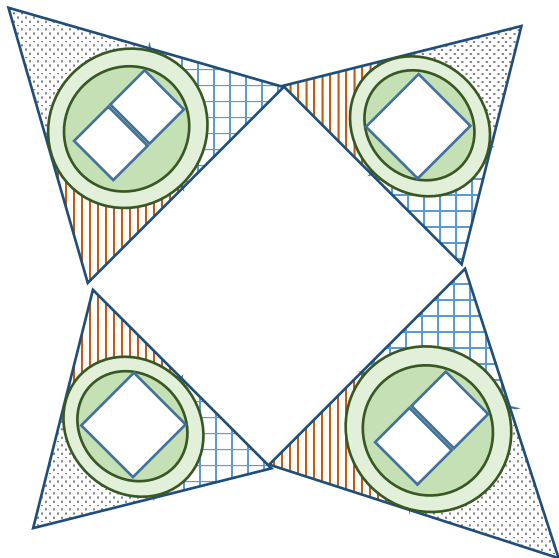
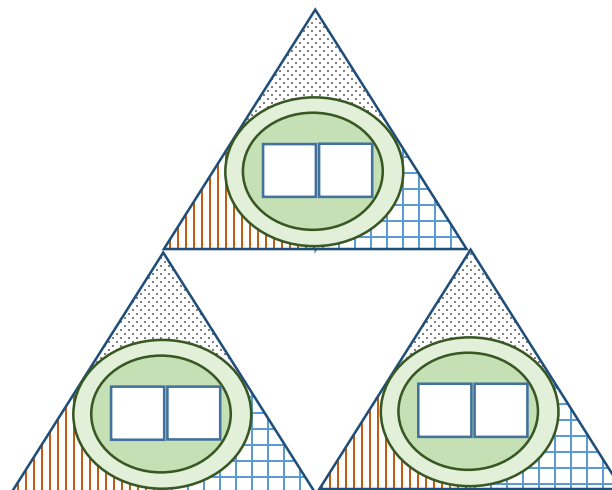
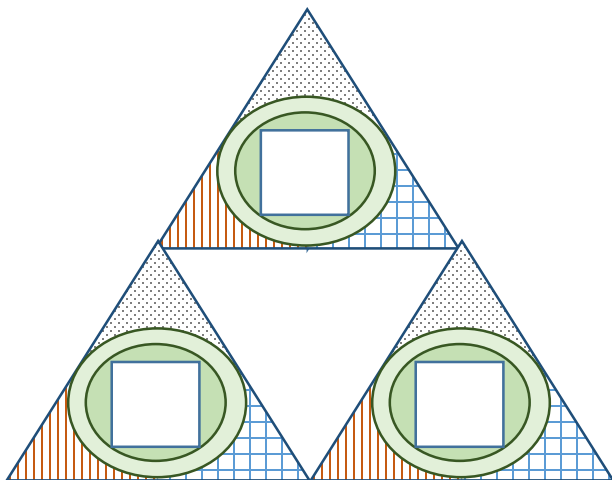
健康を意識したまちづくりが進むことで、オープンイノベーション（医工連携など）が進み、ものづくり中小企業の雇用創出につながる

「パターン1」をもとにした、ストーリー展開の概念図【議論用たたき台】



■ パターン3

他、「パターン1」や「パターン2」をそれぞれ複数考えることや、「パターン1」と「パターン2」の組み合わせなど、様々なバリエーションが考えられる



それぞれの取組みの関係性のイメージ 【議論用たたき台】

行政や民間セクター、市民セクターなど様々な主体が、「2030アジェンダ」や「SDGs」の理念を意欲的に取り入れながら、**それぞれが自律的に、それぞれの役割の中で社会課題の解決に取り組み**、各主体が持ちうる資源や情報、ネットワークが補完しあい、個々の取組みが有機的に統合されることで、**全体として、大阪の成長・発展や府民の豊かな暮らしの実現と、「SDGsの達成に貢献できる“いのち輝く未来社会”を先導する大阪」として変容すること**をめざしていく。

